

Ⅳ 研究推進

- 1 研究主題 自ら学び、共に高め合う児童生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～
- 2 主題設定の理由
本校の児童生徒は、素直で優しく、言われたことはしっかりと取り組む真面目さがある。しかし、困難に立ち向かおうとする強さや、臨機応変に対応する力という点で課題も見られる。昨年度の県学習状況調査では、前期課程、後期課程共に各教科の基本的な知識及び技能の定着に改善が見られたものの、その知識及び技能を活用して課題を解決したり、情報を整理して自分の言葉で表現したりする力には課題が見られた。
本校では、グランドデザインの下、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、「マイプラン学習」を柱として研究を進めてきた。児童生徒が自分の興味・関心や能力に合わせて学習の仕方を選択して学ぶことで、知識及び技能の定着や思考力、判断力、表現力等の向上に一定の成果が表れてきた。そのため、今年度もよりよい「マイプラン学習」を目指し、実践を進めていく。
また、児童生徒が主体的に学習に向かうためには、「学びに向かう力、人間性等」の涵養も重要であるため、今年度は道徳教育も研究の重点としたい。
- 3 研究の仮説
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、自ら学び、共に高め合う児童生徒が育つだろう。
- 4 研究の視点
 - (1) 個別最適な学び
○自分の計画で学び進める「マイプラン学習」の実施
 - ・ゴール（ねらい）を明確にした単元構想
 - ・「個別最適な学び」を「協働的な学び」ではさむサンドイッチ型授業の構想
 - ・ロイロノートやデジタルドリル教材等を活用した指導の個別化
 - ・「学習の手引き」を活用し、児童生徒に学習の見通しをもたせる「マイプラン学習」
 - (2) 協働的な学び
○児童生徒の発言から生まれる「アップデートする話型」へ
 - ・前期課程はハンドサインとの併用、後期課程からは話型中心の対話へ
 - ・基本の話型を基に児童生徒の発言から新たな話型を広げていく
 - ・「目線＋笑顔＋うなずき＋α」による、話し手に安心感を与える聞き手の育成
 - ・学習リーダーやミニティーチャーによる、自分たちで進める学習
 - (3) 学びを方向付ける人間性の育成
○価値観の「更新」を目指す道徳教育の実践
 - ・「更新」…児童生徒の考えが「変わる」「増える」「深まる・決まる」を目指した授業
 - ・「9つの視点」に基づく戦略的な授業設計の実施
- 5 研究の検証方法
 - (1) 授業アンケート（7月と12月に教科と研究に関するアンケートを行い、成果を検証する）
 - (2) 授業を見合う会（期間を設定し、互いの授業を参観し検証する）

（3つの重点を支える基本的実践事項）

- ① 予想と振り返りのある学び
 - ・児童生徒から予想を引き出し、検証しながら軌道修正していく「試行錯誤」の保障
 - ・振り返りの場を設定し、成功や失敗を次に生かそうとする意識の育成
- ② 「見方・考え方」を意識した指導
 - ・各教科の見方・考え方を働かせている児童生徒の姿を具体的に想定した授業実践
- ③ 思考ツール（シンキングツール）の活用
 - ・情報を整理し自分の考えを深める活動を通じた表現力の育成